

ダイヤ 極寒の地に輝け

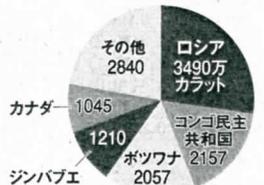
イベント週間 売上高100億円

美しい輝きで人々を魅了するダイヤモンド。世界有数の産地であるロシア極東のサハ共和国が、毎年夏の終わりに国内外の観光客や宝飾業者らを集めた「ダイヤモンド週間」を開いている。工夫をこらして世界有数のイベントを目指す背景には、極寒の土地で経済を発展させる難しさがある。

青や赤のレーザー光線が飛び交う中、白いドレスの女性がずらりとステージに並んだ。胸元や耳には大きなダイヤモンドが輝く。ファッションショーのように一人ずつ中央の通路を歩いて客席の間に立ち、ポーズを決めてダイヤモンドを強調した。サハ共和国の首都ヤクーツ



主なダイヤモンド生産国と生産量
2012年、米国地質調査所(USGS)



ツクで9月初めに開かれたショーでの一コマだ。地元宝飾会社が提供した総額5億円のダイヤが、地元政財界の有力者や国内外のセレブらを魅了した。参加者はこの後、コンサートや舞踏会を楽しんだ。ショーは、2年前に始まった「ダイヤモンド週間」

観光で産業底上げ

中国との協力も

サハ共和国は世界最大の自治体だ。面積は約3100万平方キロ、インドよりわずかに狭く、日本の約8倍の大きさを誇る。この広大な土地で生産されるダイヤはロシア産の99%、金は同15%以上を占める。さらに、石炭や天然ガス、石油も採れる「資源大国」だ。

だが、ミールヌイのニコラエフ副市長は「サハの都市を結ぶ道路や鉄道の整備が足りず、飛行機の料金も高い」と課題を挙げる。永久凍土に覆われた大地は、冬にはマイナス60度まで下がり世界で最も寒い地域として知られる。広大なサハ共和国の人口は約95万人。資源以外自立った産業はない。ヤクーツでも古い建物がち立ち並び、旧型のバスやトラックも目立つ。

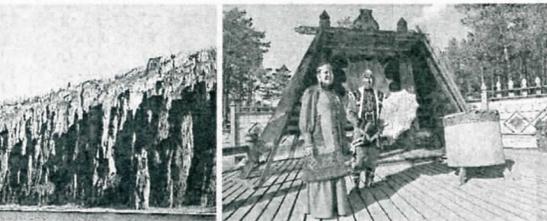
そこで、豊富な資源を売るだけでなく、産業の発展につなげようというのがサハの戦略だ。ダイヤモンド週間は、その柱の一つ。知名度が上がって観光客が増

たミールヌイのダイヤモンド鉱山にある、直径12000分の巨大な露天然掘り跡の穴をはじめ、地下の探掘現場など様々な場所へのツアーが用意される。30カ国以上の富豪を集めたダイヤモンドショーや、販売業者らの国際会議も開かれた。自然や文化を楽しむ仕掛けも整備が進んでいる。ヤクーツ川を船で上ると、河岸に巨大な石柱が連なる「レナ石柱自然公園」がある。夏は30度以上、冬はマイナス60度にもなる激しい寒暖の差によって、石灰岩が浸食されてできたという。2012年に世界自然遺産に登録された。

自然公園とヤクーツとの間には今年春、約4億円をかけて、宗教施設や昔の家を再現した体験型施設「オールド・ドイト」ができた。名前の由来は、サハの正月にあたる夏至の祭りの儀式を行う場所。「神の世界と死者の世界の間にある世界」という意味です。と、地元のアフアナス副市長。丘の中腹に円形の祭場が設けられているという。

ヤクーツ市内の宝飾店店員のマトリョーナさん(26)はダイヤモンド週間の最中、「今週の売上高は、いつもの2倍はある」と喜んでいて。期間中の1週間のイベント全体で、約100億円の売り上げがあったという。

は世界の状況に応じて輸出先を変えられると話した。ウクライナ危機をめぐり、天然ガス販売の主要顧客である欧州との対立が深まる中、プーチン政権のエネルギー戦略において、サハの重要性が増している。(ヤクーツ市)中川仁樹撮影



2014

◆輝くダイヤを身につけた女性たちが、ショーを盛り上げたヤクーツク。少数民族の文化を伝える施設も多くなるヤクーツク。巨大な石柱が連なるレナ石柱自然公園。ロシア・サハ共和国、いずれも中川仁樹撮影